

県立宝塚北高等学校 平成29年度 学校評価

A:よくできた(76～100) B:できた(51～75) C:あまりできなかった(26～50) D:できなかった(0～25)

領域	重点目標	具体的な取組	教員 ・ 中間 ・ 年間			生徒 H28 ・ H29		保護者 H28 ・ H29		担当	改善の方策	改善の方策に対する評価		
			H28	・ 中間 ・	年間	H28	・ H29	H28	・ H29					
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 ホームページの更新の頻度を上げ、最新の情報を提供する	A 86.8	B 67.2	B 70.2	B 67.7	B 67.3	B 73.8	B 73.6	広報	本年度より委員会に組織変更となった。委員全員が他の業務を兼ね、さらにホームページ作成に不慣れであるため更新頻度は下がった。保護者や中学生の要望を考え発信の質を高め、発信頻度を上げられるように委員のスキルをアップするための取組を行う。さらに発信したい情報が委員に集まってくる仕組みを考えたい。	A 87.5	○委員会組織にしたことは評価できるが、1年を経過したこともあり、来年度に期待したい。広報については、「量より質」という考え方もあるが、情報には即時性も重要であり、一定の頻度の更新は必要である。 ○評価が下がった原因が分かっているので、それに対する方策も適切であると感じる。 ○HPのレイアウトはとても見やすく「北高ダイアリー」を見ると学校の様子がよく分かる。	
		2 生徒が活躍する場を提供し、学校説明会を充実したものにする	A 79.4	B 72.5	B 67.6						総務	例年通りの活動が適切に行われたが、来年度は在校生の活躍する機会を今まで以上に設ける。	A 87.5	○教員の評価は分かるが、当日の参加生徒・保護者・中学校の教員などのアンケートを副資料として提示することも必要である。 ○中学生の疑問や質問を在校生が答えるコーナーを設けてほしい。 ○さらに生徒が活躍する場が増えることを期待したい。
	危機管理体制の確立	3 防災HRの実施や内容を工夫した避難訓練を通して職員・生徒の防災への意識の向上を図る	B 53.5	B 54.3	B 52.6	B 52.5	B 52.5				総務	避難訓練を4月初めに、防災教育を7月に実施した。さらなる充実を図りたい。	A 77.0	○高校生は、地域防災の担い手になりうる年齢である。そういった観点での指導もお願いしたい。 ○災害に備えて生徒の防災意識を高めるための工夫が必要である。 ○もしもの時の対応がスムーズにできるように続けてほしい。
		4 職員間の連絡を密にしたり、いじめアンケートを実施するなど生徒情報の共有を図り、対応できる体制づくりを目指す	B 60.0	B 56.4	B 54.1						生徒指導	いじめ防止に関する職員向け・生徒向けへの研修会を実施する。	A 77.0	○いじめについては、アンケート調査なども副資料として検証する必要がある。。また、生徒に対して「本校はいじめなどに際して相談体制は整っているか」などのアンケート項目も必要である。 ○生徒の実状を把握して情報交換をするだけではなく、情報共有を大切にして取り組む必要がある。
	地域・家庭・関係機関との連携	5 三者懇談、保護者懇談会を通して学年・学級の取組に理解を図り、保護者との連携を深める	A 77.5	B 74.6	B 74.8			B 66.0	B 67.0	1学年	7月の三者懇談、5月と10月の保護者会の実施とともに、必要に応じて家庭との連絡をとった。欠席、遅刻の際にも丁寧な対応を心掛けた。また学年通信では、行事のみならず、普段の学校での生徒の様子も画像も加え伝えるように心がけた。	A 95.0	○今後も学校と家庭が連携して教育に取り組んでほしい。	
									2学年	5月、10月に保護者懇談会を実施、およそ半数の出席をいただき、生徒の現状と課題の共有をはかった。夏季休業中に三者面談を実施し、各生徒個別の課題を話し合った。学年通信を発行し、生徒の活躍ぶりを見ていただくよう心掛けた。	○今後も学校と家庭が連携して教育に取り組んでほしい。			
									3学年	5、10月に保護者懇談会を開催、7、12、1月に三者面談を開催することで生徒状況の相互理解を図ってきた。毎月発行する学年通信やクラス通信の内容をより充実することにより、学校での生徒の状況をきめ細かく伝えていきたい。	○今後も学校と家庭が連携して教育に取り組んでほしい。			
		6 ボランティア清掃や体育大会等を通して、本校の取組への理解を図り、地域との連携を深める	B 72.1	B 74.6	B 67.6						総務	ボランティア活動や体育大会等を通して、地域との連携を高めることができたと思われるが、今後一層内容を高められる方策を検討する。	A 90.0	○何をもって連携とするのかという確認が必要である。 ○地域に根ざした活動を期待している。 ○ボランティア清掃は、ぜひ続けてほしい。
学力向上と進路実現	職員の授業力・資質の向上	7 研究・公開授業や大学の入試問題検討等を通して、教員の授業力の向上を図る	B 74.3	B 66.1	B 61.4	B 64.3	B 63.4			授業力向上	昨年度と同じ活動を行った。研究公開授業の回数を増やすことを考えたい。	A 80.0	○来年度に向けて、具体的な目標設定が必要である。 ○授業力向上のために、今後も継続して取り組んでほしい。	
		8 校外研修の発表会等校内での研修の充実を図り、初任者の育成を進める	B 65.5	B 59.2	B 57.8						教務	例年通りの研修を行った。さらに一層の工夫を図りたい。	A 87.5	○来年度に向けて、具体的な目標設定が必要である。 ○初任者の先生が成長し、活躍されることを期待している。
	すべての生徒の学力向上	9 3年間を見通して補習を計画的に実施し、生徒の学力向上を進める	B 75.0	B 67.6	B 69.7						進路指導	年間補習計画の立案を各学年にお願いし、模試の結果を共有するように努めた。ただ、補習などの成果を検討する機会があればよかった。	A 80.0	○補習への参加の意識や補習がどれくらい役に立っているのかなど生徒に対するアンケートが必要である。 ○成果を検討する機会を是非設けてほしい。 ○とても熱心に取り組んでいると言える。
		10 量・質のバランスに配慮した課題を与え、家庭学習の充実を図る	B 60.6	B 58.2	B 57.8	C 47.3	C 42.1	C 46.9	B 60.6		進路指導	課題の量については学年で検討いただき、それに基づき与えられているようである。ただ、課題に対する学年間の意思疎通がさらに必要かもしれない。	A 80.0	○来年度に向けて、具体的な目標設定が必要である。 ○学年でバラツキがないように検討してほしい。 ○課題に取り組んだ成果を生徒は実感しづらいのかもしれない。
	総合的な学習の時間の充実	11 目標(取り組む姿勢、社会性、考える力、発表する力)を明確にし、取組を公開することで内容の充実を図る	B 63.4	B 55.5	B 57.6						総合学習	例年通りの取組を行った。職員アンケートの内容を見て、次年度に活かしていきたい。	A 80.0	○発表についての生徒の参加態度や効果のアンケートが必要である。
	進路指導の充実	12 生徒個々が将来の姿を考える機会となる講演会等を企画し、キャリア教育の充実を図る	B 71.1	B 67.6	B 68.1			B 67.2	B 67.3		進路指導	それぞれの学年と協力して必要に応じた講演会などが企画できたと思われる。さらに多くの生徒のニーズに合った企画を考えたい。	A 89.0	○「生徒のニーズ」と改善の方策で述べているが、生徒のアンケートは必要である。 ○卒業生(同窓会)も活用してください。 ○将来の目標にもつながるので、今後も継続してほしい。
		13 利用しやすい進路指導室にして利用頻度を上げ、1年から進路に対する意識の向上を図る	B 65.0	B 61.3	B 69.1	C 47.4	B 55.6				進路指導	進路指導室にある図書や資料の整理や配置の見直しを行い、より利用しやすくなったと思われる。1、2年次から利用の機会が増えるよう情報を発信していきたい。	A 89.0	○全学年が利用しやすい場になることを期待している。 ○生徒は大学進学に関心が高いはずなので、1、2年の生徒が気軽に利用してみたくなる雰囲気づくりを期待している。
	演劇科の充実	14 読解力・思考力を高める特別講義等を通して、基礎学力の向上に努める	B 63.9	B 63.4	B 63.4					演劇科	H30年度より、特別講義『劇作』を、1年次で実施することになった。(H30年度は、1、2年生ともに実施する予定。)入学時の基礎学力は開きが大きい。普通科目の習熟度別授業を拡大することも検討する必要がある。	A 87.5	○『劇作』についての生徒のアンケートが必要である。 ○生徒の基礎学力の開きが改善できるような取組に期待している。 ○今後に期待したい。	
		15 専門科目等を通して対話力・表現力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図る	B 74.4	B 69.8	B 71.8	A 80.6	A 87.0	A 85.6	A 84.9	演劇科	生徒・保護者の評価(満足度)は高いが、教員の評価は低かった。演劇的な表現力が、普段のコミュニケーションに生かされていないことが要因と考えられる。演劇専門科目間や特別講義、及びその他の学校生活との有機的連携を図り、総合的に育成する必要がある。	A 89.0	○ふだんのコミュニケーションに反映できることを期待している。	

県立宝塚北高等学校 平成29年度 学校評価

A:よくできた(76～100) B:できた(51～75) C:あまりできなかった(26～50) D:できなかった(0～25)

領域	重点目標	具体的な取組	教員			生徒		保護者		担当	改善の方策	改善の方策に対する評価	
			H28 ・中間・年間			H28 ・H29		H28 ・H29					
創造的な校風の樹立	GS科の充実	16 シアトル研修を通して英語コミュニケーション能力を開発し、「世界」を意識させる	A 76.1	B 64.4	B 67.1					GS科	GS科としてのシアトル研修の一層の充実を図る。	A 87.5	○シアトル研修のアンケートの検証が必要である。 ○さらなる向上を期待している。
		17 高大連携事業を通して、「学び」の意識の向上を図り、自らの将来像を考える機会とする	B 72.1	B 66.7	B 66.0					GS科	高大連携事業、課題研究とも計画通りに進行できた。この評価をふまえ、内容の一層の充実を図っていきたい。	A 87.5	○高大連携の意義や効果について、生徒のアンケートが必要である。 ○より一層充実したものになればと期待している。
		18 課題研究の取組を通して、自主的研究活動を促進し、思考力・判断力・表現力の育成を図る	B 66.1	B 62.8	B 63.9	B 72.7	B 69.7	B 72.7	B 68.7	GS科		A 87.5	○より一層充実したものになればと期待している。
	ふるさと貢献活動事業の充実	19 養護学校等との交流を通して思いやりの心を育むとともに、自己有用感の向上を図る	B 66.6	B 64.5	B 70.8					総務	本年も例年通りに2回の交流を行った。来年度は県政150周年記念事業に合わせてさらに充実させる。	A 89.0	○交流に対する生徒のアンケートが必要である。 ○さらに充実させたものを期待している。
	国際交流事業の充実	20 提携校等との交流を通して、世界の中の日本、日本人のアイデンティティについて考える機会とする	B 62.8	C 50.3	C 48.4					国際理解	本年度は、派遣、受け入れともに実施なしの年度であった。次年度の実施に向けて、現在準備を始めている。	B 72.5	○派遣・受入のない年度でも、インターネットなどを通じた交流の方法も考えてほしい。 ○来年度によりよい活動ができるように準備を進めてほしい。
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	21 授業開始時の挨拶、校門指導を通して、「時間を守る」ことへの意識の向上を図る	B 65.0	B 63.9	B 59.3	B 57.9	B 60.5	B 71.5	B 71.3	教務	例年通りの取組を行った。さらに一層の工夫を図りたい。	A 85.0	○生徒の意識や態度についてのアンケートが必要である。
										生徒指導	バス乗車人数緩和のため時差登校を継続していく。休日明け、雨天時の早めの乗車を推奨する。		○地域の声を大事にした指導をお願いしたい。
	人権教育の推進	22 HR、「総合的な学習の時間」、行事等で、障害者や高齢者等異世代の方との交流を通して、人権意識の向上を図る	B 54.1	B 53.2	B 51.0	B 53.5	B 57.4	B 60.9	B 61.9	人権推進	例年と同様の活動を行った。来年度以降継続して実施していく分野と検討を要する分野を洗い出して見直す必要がある。	A 83.0	○それぞれの交流に対する生徒の受け止め方はどうなのか、検証する必要がある。 ○人権教育は簡単ではないと思うが、生徒が興味を持てるような取組を期待している。
	図書館利用の推進	23 「図書だより」を発行することによって、図書館の利用を啓蒙して、利用頻度の向上を図る	B 68.3	B 57.1	B 55.2	C 40.9	C 40.7			図書	図書だよりを月1回発行し、本は生徒のリクエストを重視し、教職員の推薦図書も入れている。図書の返却を円滑になるように返却BOXを設置し、図書館内は仕切りを立てて自習環境を整えた。利用頻度を上げるためには図書のジャンルの増やそうと考えている。	A 80.0	○生徒が足を運びやすいような図書館づくりを目指してほしい。 ○図書館利用を増やす工夫をたくさんしているので、とてもいいと思う。
	保健・健康教育の推進	24 講演会等を通して、保健・健康教育の充実を進め、自分自身を大切にする心の育成を図る	B 68.3	B 67.7	B 67.6			B 65.8	B 65.6	保健	講演会を通してだけではなく、生徒自身が自分の中で自尊感情を高められるような働きかけをしていけるようにしていくことを検討する。	A 89.0	○講演に対する生徒の受け止め方はどうなのか、確認する必要がある。 ○生徒は多感な年代なので、講演会だけではなく、教員の生徒への対応・声かけなどの配慮も期待している。 ○学校だけではなく、家庭でも自尊感情を育てられるよう努力してほしい。
		25 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題への早期対応ができる体制を整える	B 70.5	B 70.8	B 68.1					保健	今年度は、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関との連携が図れたが、問題解決にまでは至っていないため、次年度も連携を密にとり、問題解決に繋げられるように取り組むことを検討する。	A 89.0	○相談の体制に対する生徒の受け止め方はどうなのか、何でも相談できるのか、確認する必要がある。
	生徒会活動の充実	26 集会の集合等、生徒自らが動く機会を与え、自主的に考え、活動する機会の充実を図る	B 65.5	B 60.3	B 60.3	B 58.8	B 60.4	B 58.7		生徒指導	集会での生徒会の集合指揮や専門委員会での自主的運営を継続していく。	A 89.0	○リーダーシップを発揮して新しい試みにも挑戦してほしい。